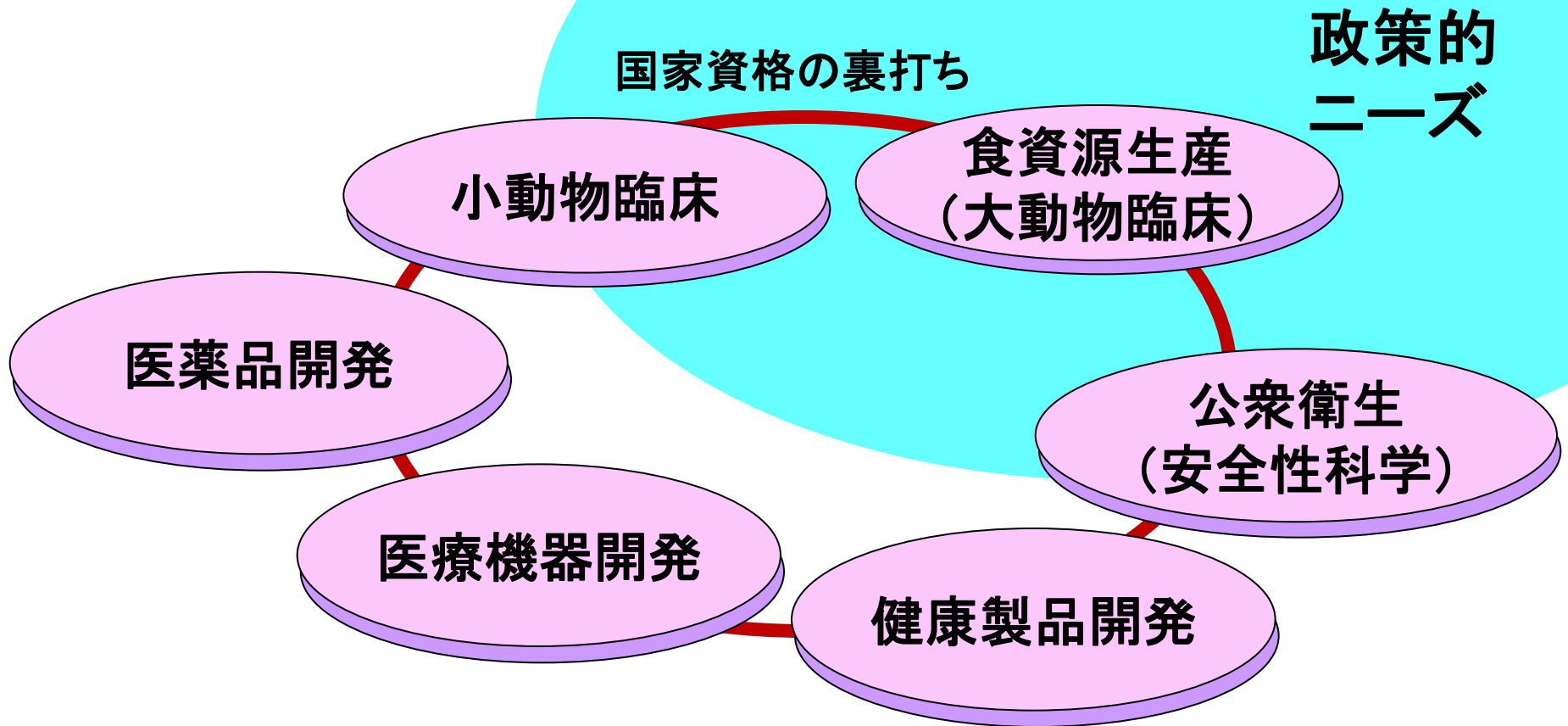


獣医師の活躍が期待されている職業領域



健康医療産業の拡大

薬・理・工と比べると獣医の存在感は弱い

健康医療産業で今、最も必要な人材

製薬産業のグローバルイシュー: 動物実験による臨床効果の予測性が極めて低い

機能(生理学)と形態(解剖学・病理学)をベースに、病気のメカニズムを理解できる人材が圧倒的に不足

Translational Medicine:
臨床効果予測のための比較病態生理学

疾患モデルの選択
動物への外挿

臨床効果の予測
ヒトへの外挿

基礎医学研究

比較病態生理学

動物実験
(疾患モデル)

比較病態生理学

臨床治験

大学

製薬企業等

病院

アカデミア
(医学部)

基礎と臨床
のギャップ

薬・理・農卒等
> 獣医

ヒト疾患の機序を知らない基礎研究者

基礎と臨床
のギャップ

臨床系医師

動物実験の限界を知らない医師

TM人材のギャップ

Translational Medicine(TM):
臨床効果予測のための比較病態生理学

機能(生理学)と形態(解剖学・病理学)の教育を受け、病気のメカニズムを理解できる人材

人材がいない

薬学部、理学部、工学部出身者:

形態(解剖学、病理組織学)および機能(生理学、生化学)の教育は深みが無く、Translational Medicine人材プールとしては適当ではない。最近では特に、分子生物学、分子遺伝学、生物工学など、“分子”を対象にした教育・研究が主流。

医学部卒業生:

TM人材ギャップを埋めるには、理想的なスキルセットを持つが、産業界の研究開発でキャリアを作りたいと希望する人は滅多にいない。

獣医師:

医師と同様、理想的な人材プールだが、安全性評価研究を除き、創薬など健康医療産業の創造系研究開発で活躍している人は少ない。

意識のギャップ

企業側

獣医師教育のバリューに気が付いていない事が多い
例えば、創薬といえば「薬学部」で、獣医は安全性病理

学生側

健康医療産業界での活躍を通して自己実現ができる機会が存在することを理解していない。
例えば、製薬会社の研究所と言って連想されるのは「病理組織検査」が最も、多く研究開発の中心業務である創造的研究業務で自分の力を試そうという発想は少ない。

教員側

医学部、薬学部と比べ、創薬など健康医療産業の実状について理解が乏しい。

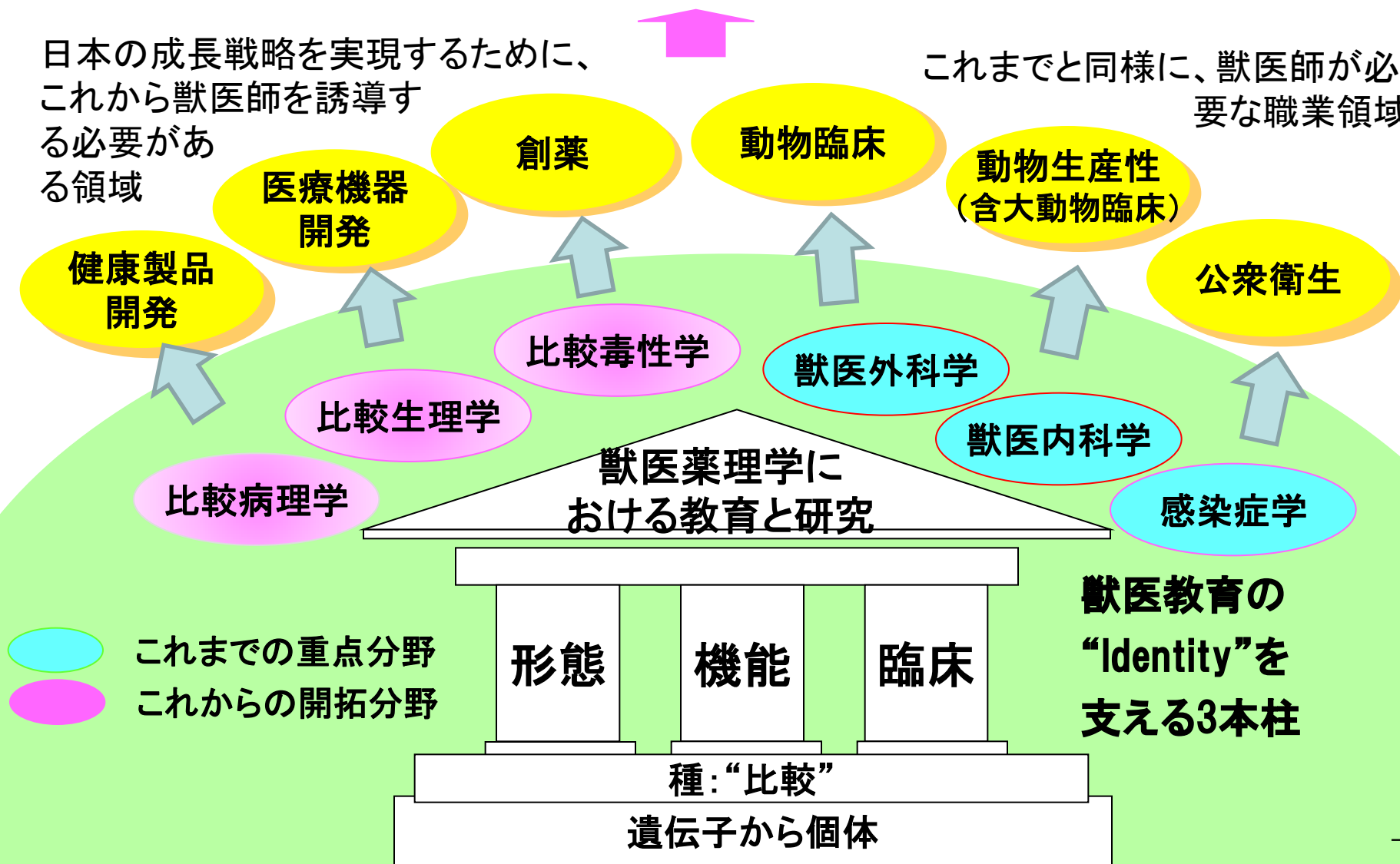
これらが相俟って、優秀な若者に、長期間にわたって、二つとない貴重な生命科学教育を施しながら、その教育の所産である人材を、国の成長戦略の糧として十分活用できていないのが現状である。

獣医学の圧倒的な強みを活かす

持続的な獣医学の発展

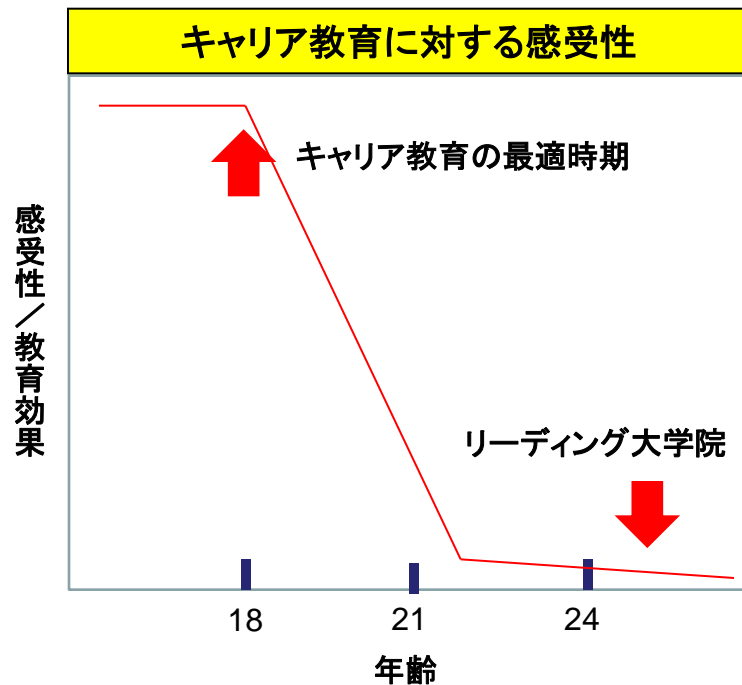
日本の成長戦略を実現するために、
これから獣医師を誘導する
必要がある領域

これまでと同様に、獣医師が必要
な職業領域



キャリア教育が鍵

新しい時代の社会の期待に応え得る獣医師の育成には、感受性が豊かで、固定観念に支配される前の学部入学時に質の高いキャリア教育を行うことが最も重要である。



入学直後にしっかりとしたキャリア教育を行うことが大事

獣医学教育を受けることによって、自分がどのように社会に貢献できるか、どのような潜在利益を得ることができるのか？

学生のうちに、何を学び、何を経験しておかなければならないかを考えるきっかけを与える。